

高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定への 文献調査や概要調査に応募しないで下さい

— 原発問題後志住民の会が8月31日、寿都町長へ要請書送付 —

危険な原子力発電に反対し、後志住民の安全・安心の確保と原発に依存しない地域づくりのために活動している原発問題後志住民の会（2010年発足）は8月31日、寿都町長宛に標題のように「文献調査や概要調査に応募しないで下さい」要請書を寿都町長宛に送付しました。要請文の概要を紹介します。

まず、「核のごみ」を地下300メートル以上深い地層に10万年以上も安全に保管することは不可能ではないでしょうかとして、資源エネ庁が公表した「科学的特性マップ」は、地層処分候補地を決める基礎的資料として、「好ましい地域」と「好ましくない地域」に区分し、海岸地域のほとんどは「好ましい地域」にしているが、寿都町は、近くに、「黒松内低地断層帯」があり、積丹半島の沖合の西方海域には60～70kmの断層が指摘されている、そもそも日本列島は世界でも最も地震の多い国の一つで、地層処分の例に挙げられるフィンランドやスウェーデンとは異なり、この先10万年以上もの期間、地下300m以下の地層の変化の予測は不可能としています。

次に、地層処分地に搬送される核のごみ・「ガラス固化体」は、1メートル離れた場所に数10秒ただけで死に至るほど強い放射能を持っていることから、ガラス固化体はベントナイト（粘土）で覆われている。しかし、地下水の浸透や放射性物質の漏洩を10万年以上もの期間防ぐことは可能かと問い、国際原子力機関（IAEA）は、1977年に「地下水流動は放射性廃棄物の地層処分に対する主要な脅威」であるとしているのに、「科学的特性マップ」には地下水に対する考え、特に地下水流動の視点がなく記述もされていないと指摘し、資源エネ庁の説明責任が問われていると批判しています。

ついで、寿都町はニシンで栄えた漁業の町で水産加工業も盛んで、自然を生かした風力発電で財政力を強め、ふるさと納税でも後志管内でトップクラス、参考にしたい町だと述べ、その寿都町が町財政の将来を見据えて応募を検討するというが、長年にわたる国の地方財政切り捨てがもたらしたもので、国は「文献調査」の交付金を年間2.1億円から10億円に増額して、財政難に苦しむ自治体は交付金目当てに調査に応じるであろうという思惑があると批判、国の交付金目当てに、危険な迷惑施設を受け入れることは、果たして真に将来を見据えた財政対策かと疑問を投げかけています。

最後には、町職員のアンケート、非公開の9名の議員と主要経済5団体との意見交換会、これから予定の町民との意見交換など、ぜひ十分な時間をかけて、学者や研究者、専門家の意見にも耳を傾け、町民を二分することのない結論を導いてください、日本は地震や火山活動が活発な変動帯に属していて、地下に「高レベル放射性廃棄物」を安全に保管する場所はない、寿都町は「高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査」に応募しないで下さいと要請しています。

「寿都に核のごみはいらない町民の会」の署名を急いで集めへ送みましょう

町長、町民説明会7日～15日まで7会場で開催

片岡春雄寿都町長は、核のごみの文献調査応募の町民への説明会を、9月7日から15日まで町内7カ所で開催する計画を発表しました。「町民の会」の署名を急ぎ集め送みましょう。送付先は、署名用紙に明記されている「町民の会」宛です。よろしくお願ひします。

原発連事務局FAX通信 第1023号 2020年 9月11日

原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、Fax:011-777-1061

寿都町長は、文献調査応募表明を撤回せよ！

北海道のどこにも核のごみ捨て場はいりません

—9・11 イレブンアクションに8団体から14人、横断幕掲げアピール—

原発問題全道連絡会と国民大運動北海道実行委員会は福島第一原発事故から9年6カ月目となる9月11日、JR札幌駅西口・紀伊国屋書店札幌本店前で9・11イレブンアクションを実施しました。



8月中旬後志管内寿都町の片岡春雄町長が、核のごみ（高レベル放射性廃棄物）の最終処分場の候補地選定の第一段階・文献調査への応募の検討を突然表明した問題を中心に、緊急に作成した「北海道に核音ごみはいりません」の横断幕を掲げ、道民連の木幡秀男社保広報部長、新婦人道本部の横井早苗常任委員、北海道商工団体連合会の井上元美事務局長、日本共産党北海道委員会の山崎航平常任委員、三上友衛道労連議長の各氏がスピーチ、文献調査だけで20億円もらえば、最終処分場まで進

まなくてもよいなどという町長の話は、原発交付金の例から見てもあり得ない話、漁業と観光の町寿都の未来は台無しになる、原発がなくても電気は足りてる、泊原発再稼働反対、北海道に核のごみ捨て場はいらない！寿都町長は文献調査への応募を撤回せよ！などとアピールしました。この日の泊原発の再稼働の賛否を問うシール投票は、反対32、賛成3、どちらでもない1でした。8団体から14人が参加しました。

神恵内村商工会が核ごみ調査を村議会に請願

—9月定例村議会で審議採決の予定、寿都に続く不見識な動き—

9月11日の「道新」は1面トップで、後志管内泊村に隣接する神恵内村の商工会が、核のごみの文献調査に村が応募するよう求める請願を9月15日から開会する定例村議会に提出したことが9月10日に分かったと報道しました。

この請願を提出した村商工会の上田道博会長・村議会議員は、道新の取材に「議案の内容は言えない。神恵内のため、将来の経済を考えた」と話したと報じられ、伊藤公尚議長は「一切コメントしない」と語ったと報じられています。高橋昌幸村長は、「議会の議論を見守り、結論が出たのちに村としての判断を出したい」と話したと報じられています。

神恵内村の大部分は「科学的特性マップ」でさえ「好ましくない地域」

しかし、神恵内村はほぼ全域が、経産省の「科学的特性マップ」で「好ましくない地域」と図示されています。また泊原発廃炉訴訟で原告団は、泊村や神恵内村を含む積丹半島西岸は、地震性隆起で形成された不安定な地域で、原発立地に不適な場所だと主張しています。原子力規制委員会は、泊原発の適合性審査で、神恵内村の一部地域で地震に伴う山体崩落が起き、大量の土砂が海に崩落流入し、地震津波と山体崩落津波が重なり、泊原発専用港東側防波堤を破壊、流動させ、西側防波堤南隅の3号機の海水取水口をふさぎ、3号機の炉心溶融事故を招く恐れを指摘、北電も対策を検討中としています。もし神恵内村商工会の請願内容が、村内での文献調査に応募するよう求める内容なら、不見識極まりなく許されません。請願内容の公開は当然であり「一切コメントしない」というのも一体誰のため何のための村議会か厳しく問われなければなりません。

原発連事務局FAX通信 第1024号 2020年 9月12日

原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、Fax:011-777-1061

寿都町長に応募検討表明撤回を求める署名 有権者の過半数 1300 筆超めざし運動本格化へ

—寿都町民有志 30 人が、文献調査応募反対で「町民の会」結成—

「道新」報道（9月11日朝刊、29面）によると、寿都町で9月10日、核のごみの最終処分場の候補地選定調査に反対する町民有志30人が、「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」を設立し、応募検討撤回署名を集め、住民投票などを求める要望書も片岡春雄町長に提出する方針です。

この新「町民の会」は、寿都水産加工協同組合青年部メンバーが中心となり、8月に町内外から7千8百余筆（同町内から695筆）集めて8月27日に寿都町長に提出した「寿都に核のゴミはいらない町民の会」（呼びかけ人8氏）が前身です。

「道新」は、新「町民の会」の共同代表の1人、南波久氏（59）が「財政難を（応募検討の）理由にするのなら、原因と解決法を一から議論すべきだ」と訴え、前身の「町民の会」がすでに集めた署名を含め、合計で町の有権者の過半数の1300人超を目指としています。

新「町民の会」に運動に呼応し、署名を集めるなど、支援と連帯の活動を広げましょう。

「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」設立宣言

寿都町のみなさん、北海道の皆さん、全国の皆さん、わたしたちは「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」です。

8月13日、片岡春雄町長が「高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査への応募」検討していると北海道新聞朝刊にて報じられました。地元の寿都町民は何も知らされておらず、寝耳に水の状態でした。

私たちは声を大にして叫びます。私たちの町に核のゴミはいりません。美しい海と山と川にそんなものは似合いません。

寿都では、春になると、山では山菜が萌え、海にはホッケやコウナゴがやってきます。コウナゴの生炊きシラスをつくる醤油と水飴の匂いが町中に漂います。連休頃からは、寿都湾で養殖する牡蠣が水揚げされます。朱太（しゅぶと）川の栄養で育てられた日本のどこにも負けない美味しい牡蠣です。毎年7月の神社例大祭では、町のなかをお神輿や奴、花山が練り歩きます。秋になると、サケの水揚げが始まります。キノコを求めて、山を歩く人も増えます。冬には、ホッケがふたたび現れます。この時期のホッケは飯寿司の材料となります。自然の恵みによって、寿都は生かされてきました。これからも生かされていくことでしょう。

人間がそばに立てば、わずか数十秒で死んでしまうような強烈な放射能を持つ核のゴミ、無毒化されるまでに10万年もかかるような核のゴミ…。それほどまでに危険なものを、私たちの町に持ち込ませるわけにはいきません。子どもたち、その子どもたち、さらにその子どもたちが寿都で平和に生きていくためにも、声を上げるべきだと私たちは立ち上がりました。

片岡町長にお願いします。私たちの美しい街を売り渡すようなまねはやめてください。文献調査への応募はやめてください。

町民の皆さん、北海道の皆さん、全国の皆さん、私たちにお力をお貸しください。私たちは、寿都を守るため立ち向かっていきます。

2020年9月10日

「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」